

目 次

はしがき

第1章 序 論	1
第2章 関係節の諸問題	9
2.1. 関係節の統語構造：NP 先行詞説と N' 先行詞説	9
2.2. 関係節の意味・機能：修飾部説と述部説	12
2.3. 関係節の情報構造：前提と断定	14
2.4. 関係節の関係詞：変項説と代名詞説	17
2.5. 制限的關係節と非制限的關係節	18
第3章 非制限的な制限的關係節	21
3.1. 関係節と独立の命題	21
3.2. then を含む制限節	23
3.3. in turn を含む制限節	27
3.4. however を含む制限節	30
3.5. 理論修正の必要性	34
第4章 関係節の統語構造と意味機能	37
4.1. 関係節の意味機能	37
4.1.1. 修飾部説	37
4.1.2. 同一指標の意味	39
4.1.3. 限定修飾と先行詞	42
4.1.3.1. 派生名詞	42
4.1.3.2. 先行詞の統語範疇	43

4.1.3.3. 抽象名詞	45
4.1.3.4. 固有名詞	49
4.2. 関係節の統語構造と修飾部説	51
4.2.1. N'先行詞制限節とNP先行詞制限節	52
4.2.2. 二つの統語構造と修飾部説	54
4.2.2.1. 類先行詞制限節と個体先行詞制限節	54
4.2.2.2. 下位類形成機能と属性叙述機能	55
4.2.2.3. 網羅性の条件	57
4.3. 「制限的な制限節」と「非制限的な制限節」の説明	59
4.3.1. 統語的・意味機能的説明	59
4.3.2. 論理学上の説明	62
4.4. 先行詞と定性	65
4.5. 関係節の諸問題と本書の分析	67
4.5.1. NP先行詞説とN'先行詞説	67
4.5.2. 修飾部説と述部説	67
4.5.3. 前提と断定	69
4.5.4. 変項説と代名詞説	70
4.5.5. 制限節と非制限節	71
第5章 検証と分析の精密化	75
5.1. 制限節と非制限節の生起順序	75
5.1.1. Jackendoff (1977a, 1977b) の主張	75
5.1.2. 本書の予測	76
5.1.3. 検証	78
5.2. 外置	81
5.2.1. 先行詞の定性と外置の諸要因	81
5.2.2. 本書の分析	85
5.2.2.1. 統語的要因	85
5.2.2.2. 意味的要因	90
5.2.2.3. 一見の例外	91
5.3. 先行詞の決定	94
5.3.1. 強名詞句の場合	94
5.3.2. 先行詞の自動的決定	95
5.3.2.1. 単純名詞句の機能：分類機能的な名詞句と非分類機能的な名詞句	95
5.3.2.2. 単純名詞句の機能と制限節の機能	97

5.4. 名詞句の分類機能とその証拠	99
5.4.1. 定名詞句の特定性と外置	99
5.4.2. 強名詞句・弱名詞句からの外置	101
5.4.3. 形容詞・分詞の後位用法	102
5.4.4. 分類機能のその他の証拠	109
5.4.4.1. 永続的述語の主語	109
5.4.4.2. as/though Preposing の主語	111
5.4.4.3. 遊離数量詞の先行詞	112
5.4.4.4. there 構文の「主語」	113
5.5. スタイル離接	114
5.5.1. frankly	114
5.5.2. 一見の例外	116
5.5.3. incidentally	118
5.6. 遂行動詞の遂行的用法	120
5.6.1. 一般的な遂行動詞	120
5.6.2. 一見の例外	122
5.6.3. daresay の場合	123
5.7. 擬似関係節	125
5.7.1. 従来の分析とその問題点	125
5.7.2. 本書の分析	132
5.7.3. 摘出と言語運用的要因	140
5.8. 等位接続された先行詞と分離先行詞	143
5.8.1. 等位接続された先行詞	143
5.8.2. 分離先行詞	145
5.8.2.1. 仏語の場合	145
5.8.2.2. 英語の場合	146
5.9. 関係詞の形態と独立の命題	148
5.10. 関係詞と部分表現	151
5.10.1. 言語事実	151
5.10.2. 言語事実の説明	156
5.11. 遊離数量詞	160
5.11.1. 言語事実	160
5.11.2. 言語事実の説明	168
5.11.3. 一見の反例	173
5.12. 照応的代名詞としての関係詞とその先行詞	183
5.13. 従来の証拠と本書の分析	190
5.13.1. N' 先行詞説とその証拠 (McCawley の証拠)	190

5.13.2. 含意	196
5.13.3. 再構築	198
5.13.4. 制限節の繰り上げ(抽出)分析 (promotion analysis)	199
第6章 範囲指定の関係節	209
6.1. 範囲指定の関係節とは	209
6.2. 範囲指定の関係節の証拠	212
6.2.1. 先行詞	212
6.2.2. 関係詞	214
6.2.3. 内部構造	215
6.2.4. 分布	215
6.2.4.1. 制限節との生起順序	216
6.2.4.2. 補部との生起順序	219
6.2.4.2.1. 補部の前置詞句との生起順序	220
6.2.4.2.2. 補部の to 不定詞との生起順序	224
6.2.4.2.3. 補部の関係節との生起順序	225
6.2.4.3. 同格節との生起順序	233
6.3. 範囲指定の関係節の「先行詞」	234
6.4. 名詞句外の関係節	237
6.4.1. イディオム説	237
6.4.2. 副詞節の証拠	240
6.4.3. 副詞節の性質と関係節の性質	243
6.5. 範囲指定の関係節の派生	252
6.6. 派生プロセスの精密化	253
6.7. 言語習得の原理とその説明	261
6.8. 範囲指定の関係節と強束縛	264
第7章 本分析の理論的意味合い	267
補足データリスト	273
参考文献	283
索引	295